

平成29年度スーパーグローバルハイスクール管理機関等連絡会 ～ 事例報告 ～



国立大学法人愛媛大学(管理機関)
愛媛大学附属高等学校

内 容

1. SGH事業の概要
2. 特徴ある取組
 - (1) 課題研究の概要
 - (2) 課題研究のルーブリック評価
 - (3) 大学の講義を受講し、二重単位の取得
3. 2018・2019年度 of 取組
4. SGH事業の成果と課題
5. 補助金終了後の取組計画(構想)

1. SGH事業の概要

いよ 伊豫の学びから世界の学びへ グローバルマインドを持ったグローバル人材の育成

ローカル

地域を多面的観点から探求する

伊豫学

専門家を招き、愛媛の歴史・文化、環境などを学習する

地域の産業

農業実習を通して六次産業化の現状を理解する

地域のステークホルダーとの連携

- 就農体験
- えひめグローバルネットワーク
- 愛媛大学サポート協力企業
- 子規記念博物館 など

論理的な思考能力

1年

グローバル

協定校の窓口から世界を見る

グローバル・スタディーズ

地域の課題と世界の課題とのつながりを理解する

異文化理解

協定校と協力して世界の人々と交流する

海外の協定校との連携

ルーマニア、アメリカ、韓国
オーストラリア、フィリピン
モザンビーク、インドネシア

2年

コミュニケーション能力

グローバル

自ら設定した課題にチャレンジする

課題研究

一人一課題を設定し解決のための探究活動を行う

リベラル・アーツ

大学生との協働学習を通して確かな学力を身につける

課題追究能力

3年

身につけさせたい力

- 課題を発見し立ち向かう力
- 多様な価値を理解し対話する力
- 論理的に思考し判断する力
- 知識や技能を適切に運用する力

愛媛大学との接続

- バイオニアAPプログラムの推進
- ルーブリック評価による課題研究の高度化
- 「SUIJI」への参加
- 留学生インターンシップ参加

グローバル人材育成における高大連携授業の概要

「伊豫学」（高大連携授業）



愛媛の自然環境、文化、産業、歴史、科学技術と情報、医療と福祉、国際社会とのつながり等をテーマとした課題発見解決型の授業

「地域の産業」

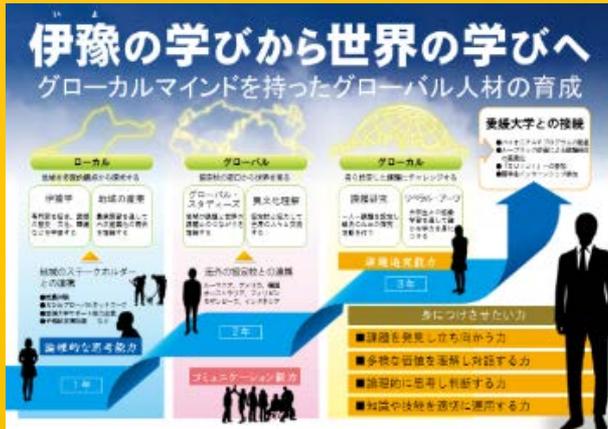


愛媛の現状を踏まえた農業の六次産業化の動向を知り、地域の課題を発見・探究する授業

「グローバル・スタディーズ」（高大連携授業）



地域の課題と世界で起きている社会課題との繋がりについて学習する授業



Super Global High School
SGH事業



前
大
学
教
員
と
の
事
打
合
せ



ICT
機
器
の
活
用

S
k
y
p
e
交
流



海外の協定校（5 国：5 高校、2 大学）との交流、現地渡航を通して、協力的な課題解決学習を行う授業

「異文化理解」（高大連携授業）



大学教員50名の指導の下、地域あるいは世界の課題を一人一課題設定し、1年間かけて探求型調査・研究を行う授業

「課題研究」（高大連携授業）



愛媛大学共通教育科目10講座から1講座を選択し、大学生と一緒に受講する授業。

「リベラル・アーツ」（高大連携授業）

2. 特徴ある取組

(1) 課題研究の概要

項目	内容
概要	①生徒が自ら課題を設定 ②大学教員の指導による1年間の探究活動 ③課題解決能力・自発的・創造的な学習態度の育成
対象	3年生全員(120人)
テーマ	一人1課題(毎年120テーマ) 例:「インドネシアの環境汚染について」など
体制	①高大接続推進室、附属高等学校連携委員会 ②大学教員(約50人)及び附属高校教員(約30人)
評価	①大学教員 自由記述方式およびルーブリック評価 ②高校教員 学修単位の認定、3単位 ③生徒 ルーブリック評価

2. 特徴ある取組

(1) 課題研究の概要(実施スケジュール)

学年	時期	内容
2学年	10月～11月	キーワード希望調査・調整
	12月～ 1月	研究テーマ・研究内容作成
	1月～ 2月	課題研究計画書作成
	2月～ 3月	生徒と大学教員との面談
3学年	4月～ 9月	課題研究実施
	7月	課題研究 中間発表会(全員)
	9月	課題研究 成果発表会(全員)
	2月	課題研究 代表者発表会(約7件)



大学教員との打ち合わせ



研究指導



研究活動(実験)



課題研究成果発表

(2) 課題研究のルーブリック評価

- ①2015年度 愛媛県内のSGH、SSH指定校の**教員と大学教員**とで**ルーブリック**を協働開発し試用
- ②2016年度 2種(プロセス評価、課題発表評価)のルーブリックを高校教員と大学教員とで開発
- ③2017年度 県内SGH、SSH指定校で活用開始

(参考)ルーブリック <http://ap.hi.ehime-u.ac.jp/>

■ルーブリック活用による主な効果

- 1 指導者が**目標とする到達基準を知る**ことができる
- 2 課題研究の成果を**客観的に評価**できる
- 3 生徒**自らの達成目標を明確化し、指導者と共有**できる
- 4 指導者による**評価の均質化**ができる

(3) 大学の講義を受講し、二重単位の取得

① 愛媛大学

- ・大学教育の先取りによる学ぶ意欲の向上と大学教育の高度化を図るため、高校生に大学の講義を受講する機会を提供
- ・2016年度 愛媛大学に「高大接続科目等履修生」制度を創設
- ・高校生を愛媛大学の「高大接続科目等履修生」として受入れ、成績判定により、**大学の単位を付与**
- ・大学入学後は、既修得単位として扱うこともできる

② 高等学校

- ・「学校外における学修の単位」として**高校の単位付与**

(参考)2017年度高大接続科目

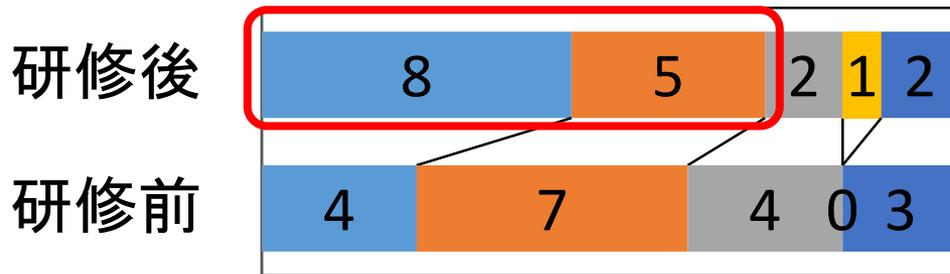
授業科目	単位	授業題目
環境学入門	1	日本の森林環境
人間科学入門	1	平和学(平和のための戦争学を考える)
生活科学入門	1	薬学入門
考古学入門	1	過去の社会と文化を探る
法学入門	1	国際的素材を用いた法律入門
物理学入門	1	力学の歴史
化学入門	1	化学の視点で環境とエネルギーを考える
生物学入門	1	植物の形態と動き
数学入門	1	数理論理学、集合論
ことばの世界	1	現代英語に見る多様な言語表現とその理解及び習熟

3. 2018・2019年度の取組

(1) 海外研修・研修プログラムの深化

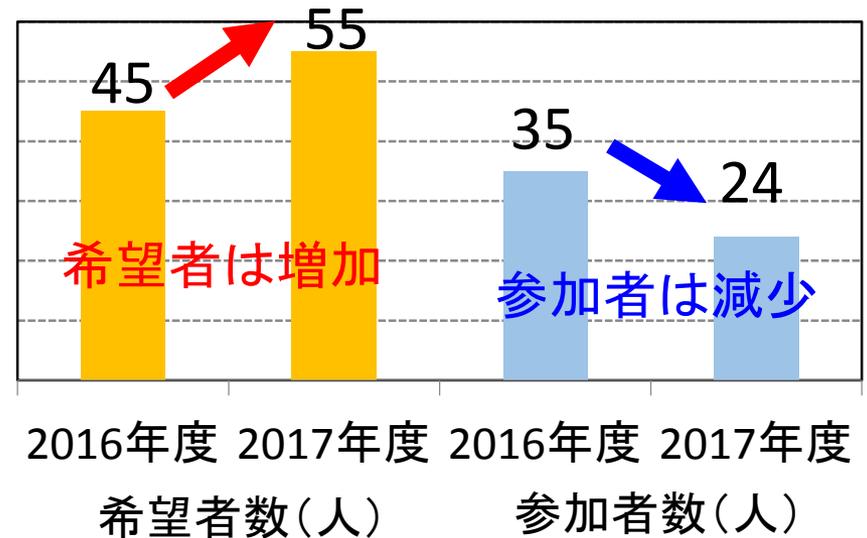
英語でのプレゼンテーションに挑戦してみたい

英語プレゼン希望者が増加



- 強くそう思う
- かなりそう思う
- ある程度そう思う
- ほんの少しそう思う
- 全くそう思わない

海外研修希望者数と参加者数



2017年度と同等の参加者数・海外研修プログラムの実施

(2) Skype等を活用したICT交流プログラムの構築

SGH実施3年の交流実績をもとに、費用のかかる海外研修に代わり、SkypeなどICTを活用した交流プログラムの構築をめざす。

4. SGH事業の成果と課題

(1) 大学との連携強化、高校教員の教育研究力の向上

- ・愛媛大学との密な連携
- ・国際交流提携の支援
- ・教員による共同研究・研究発表・論文発表
- ・持続可能なプログラム設計（SGH中間評価（講評）より）

(2) グローバルな視点を持った人材を計画的に育成

- ・ローカル・グローバル・ローカルな一貫性のあるプログラム開発
- ・段階的にグローバル能力を育成する工夫に富む精力的な取組
- ・成果を客観的なデータを踏まえて分析
- ・PDCAサイクルを基準とした指導の工夫・改善
- ・アクティブ・ラーニングへの指導法転換（SGH中間評価（講評）より）

(3) SGH事業の成果普及・深化～経費確保が困難～

- ・グローバル人材の育成は、地方創生をも担う重要な課題
- ・新たな取組を実施するための経費確保が課題
- ・一過性にならないよう、継続的な支援が必要

5. 補助金終了後の取組計画(構想)

-グローバル人材育成の次のステップを目指して-

新たな取り組み

-ASEAN諸国の歴史・文化・言語教育-

- ・愛媛大学の留学生・協定大学の協力
- ・インターネットを用いた遠隔講義・共同作業によるASEAN諸国の高校との交流
(全員参加および、他校・地域への成果普及の可能性)
- ・海外研修および相互訪問交流(予算に依存)

対象地域をASEAN諸国とした理由

- ・我が国にとって重要な地域
- ・地方では、歴史・文化・言語学習のチャンスが無い
- ・時差の問題がない
- ・地域のニーズ(愛媛県内の企業の進出先)



ご清聴ありがとうございました。